

2024年度卒業生の成長実感と満足度

～ 卒業生の声 から学科の 強み・課題 を考える ～

山陽学園大学・山陽学園短期大学 IR推進室

1

1. レポートの目的

- 毎年度、全ての在學生を対象として実施している学修行動及びキャンパスライフ調査の回答から卒業生の回答を抽出して対外的に公表している。
- この調査は2018年度から実施しているため、卒業生というコホート（同一の集団）の回答については、卒業時の静的な情報だけでなく、1年次からの動きを動的に把握することが可能となっている。
- このレポートでは、2024年度卒業生の成長実感（16項目）と帰属意識、愛着度を含む満足度（5項目）の2つの分野の回答について、1年次からの動きも含めて学科ごとのデータを集計・分析することで、各学科の強みと課題を考える材料を提供するものである。

2. 留意事項

- 学修行動及びキャンパスライフ調査の概要は次のとおりである。
 - 調査対象：全ての在學生
 - 調査方法：Web回答（Google Form利用）とアンケート用紙を併用して11月～1月に実施
 - 回答率：別表1のとおり
- 集計・分析は、大学と短大それぞれの学科の卒業時の回答を比較した上で、各学科で1年次からの動きを示している。
- 短期大学については、FD・SD研修のアンケート等で「2年コースと3年コースでは学生の意識等がかなり異なっていると感じている」との意見があったことを踏まえ、2022年度、2023年度卒業生分と同様に、コースごとで集計・分析を行っている。
- 集計結果には、別表1に記載のとおり標本誤差があり得ることに注意する必要がある。

2

別表1 回収率・標本誤差一覧表

学 科	区分A	2021	2022	2023	2024	区分B	2021	2022	2023	2024
言語文化	学生数	46	46	47	48	回収率	97.8	100.0	100.0	97.9
	回答数	45	46	47	47	標本誤差	±2.2	±0.0	±0.0	±2.1
ビジネス心理	学生数	31	32	31	30	回収率	77.4	65.6	96.8	100.0
	回答数	24	21	30	30	標本誤差	±9.7	±12.7	±3.3	±0.0
地域マネジメント	学生数	46	44	43	43	回収率	65.2	40.9	76.7	95.3
	回答数	30	18	33	41	標本誤差	±10.7	±18.0	±8.3	±3.3
看 護	学生数	63	61	62	70	回収率	100.0	100.0	100.0	98.6
	回答数	63	61	62	69	標本誤差	±0.0	±0.0	±0.0	±1.4
健康栄養（2）	学生数	—	—	22	22	回収率	—	—	100.0	100.0
	回答数	—	—	22	22	標本誤差	—	—	±0.0	±0.0
健康栄養（3）	学生数	—	39	39	40	回収率	—	97.4	100.0	100.0
	回答数	—	38	39	40	標本誤差	—	±2.6	±0.0	±0.0
こども育成（2）	学生数	—	—	9	10	回収率	—	—	100.0	100.0
	回答数	—	—	9	10	標本誤差	—	—	±0.0	±0.0
こども育成（3）	学生数	—	62	59	59	回収率	—	77.4	96.6	96.6
	回答数	—	48	57	57	標本誤差	—	±6.8	±2.4	±2.4

※1 表頭の4桁の数字は年度。学生数、回答数の単位は人、回収率、標本誤差の単位は%。

※2 短期大学の学科の後の（2）は2年コース、（3）は3年コースを表している。

※3 標本誤差は、計算式で求めた95%の確率での最大誤差の数値。うち赤字の数字は誤差が10%を超えているもの。

3

別表2 集計項目一覧表

成長実感の項目
1. 授業の重要なポイントをノートにまとめる力
2. 図書館等で文献を調べる力
3. 文献や資料を読んで要点を理解する力
4. 自分の意見と事実を分けて書く力
5. ものごとを客観的・多面的にとらえる力
6. ものごとに対して粘り強く取り組む力
7. ものごとの問題点を発見する力
8. 発見した課題を解決する力
9. 自分の意見を筋道を立てて主張する力
10. 英語の能力
11. 多文化、異文化の人々に関する知識
12. 地域社会が直面する問題に対する理解
13. 国家間、国際的な問題に対する理解
14. リーダーシップ
15. 人間関係を構築する力
16. 大学の建学の精神や教育理念、歴史や伝統

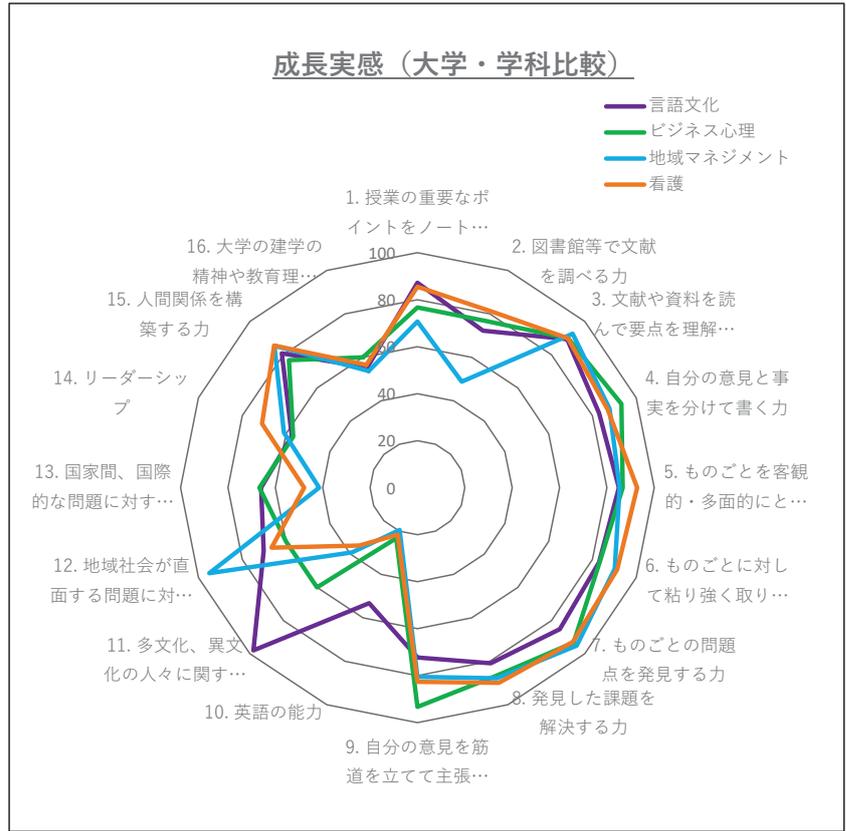
満足度の項目
1. 教員との交流の実感
2. 本学への帰属意識
3. 大学生活への満足度
4. 教育全般への満足度
5. 本学への愛着度



4

3. 成長実感 (1-1) 大学・学科比較

項目	言語文化	ビジネス心理	地域M	看護
1	87.2	76.7	70.7	85.5
2	72.3	76.7	48.8	81.2
3	89.4	90.0	92.7	89.9
4	83.0	93.3	87.8	87.0
5	85.1	86.7	85.4	92.8
6	83.0	83.3	90.2	91.3
7	85.1	93.3	95.1	92.8
8	80.9	86.7	87.8	89.9
9	72.3	93.3	80.5	82.6
10	53.2	23.3	19.5	21.7
11	97.9	60.0	39.0	34.8
12	70.2	60.0	95.1	66.7
13	66.0	66.7	41.5	47.8
14	57.4	56.7	61.0	71.0
15	80.9	76.7	85.4	85.5
16	55.3	60.0	53.7	56.5

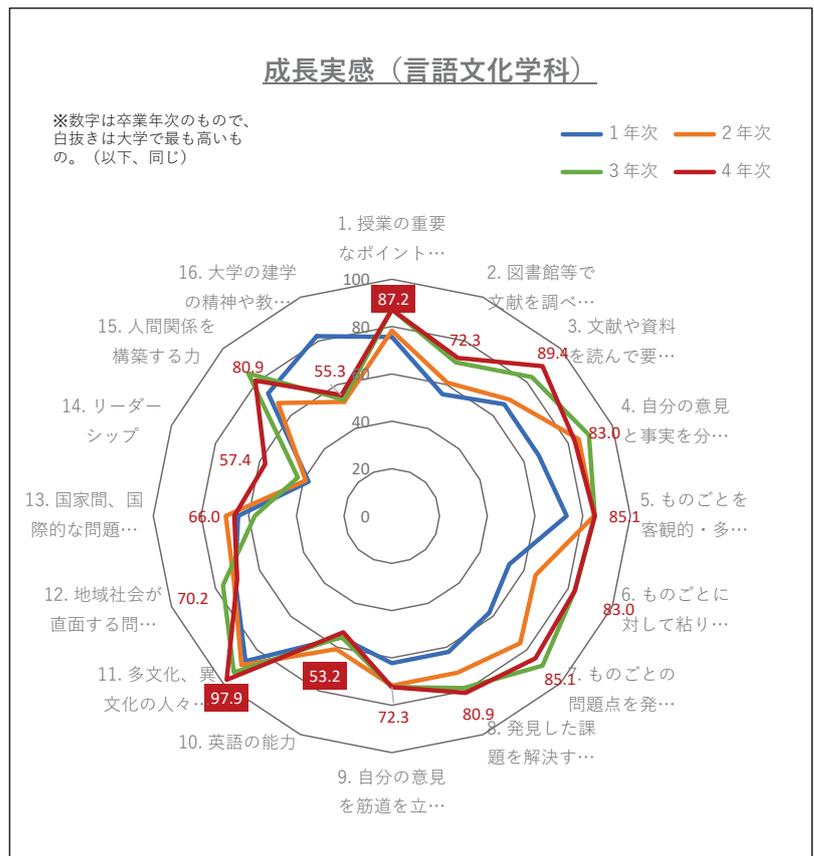


※背景色が青のものは大学で最も高いもの。

3. 成長実感 (1-2) 大学・言語文化学科

- 学修の基礎的なスキルのうちの2、3や8. 発見した課題を解決する力は、年次で着実に向上している。
- 11.多文化・異文化の人々に関する知識は、1年次から約9割と高い数値であり、かつ、年次で見ても向上している。
- 10.英語の能力は、大学で最も高い数値ではあるが、最大の2年次で60.9%、4年次では53.2%に止まっている。

項目	2021	2022	2023	2024
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	75.6	78.3	87.2	87.2
2	55.6	60.9	70.2	72.3
3	66.7	69.6	83.0	89.4
4	66.7	84.8	89.4	83.0
5	73.3	84.8	85.1	85.1
6	53.3	65.2	83.0	83.0
7	57.8	76.1	89.4	85.1
8	62.2	71.7	78.7	80.9
9	62.2	71.7	72.3	72.3
10	55.6	60.9	55.3	53.2
11	86.7	89.1	93.6	97.9
12	71.1	71.7	76.6	70.2
13	64.4	69.6	57.4	66.0
14	37.8	39.1	42.6	57.4
15	73.3	67.4	85.1	80.9
16	82.2	52.2	53.2	55.3



3. 成長実感 (1-3) 大学・ビジネス心理学科

- 4、9、13、16の4項目での成長実感が、大学で最も高くなっている。
- 問題発見・解決等の力(5~9)は3年次または4年次が最も高くなっており、全体的には概ね年次で高まっている傾向にある。
- 12.地域社会が直面する問題理解、14.リーダーシップ、15.人間関係を構築する力の3項目は大学で最も低くなっている。

項目	2021	2022	2023	2024
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	75.0	90.5	70.0	76.7
2	83.3	66.7	70.0	76.7
3	75.0	81.0	66.7	90.0
4	87.5	76.2	90.0	93.3
5	87.5	66.7	93.3	86.7
6	79.2	76.2	60.0	83.3
7	87.5	81.0	86.7	93.3
8	79.2	81.0	86.7	86.7
9	79.2	76.2	76.7	93.3
10	62.5	33.3	26.7	23.3
11	75.0	52.4	53.3	60.0
12	66.7	52.4	63.3	60.0
13	66.7	57.1	53.3	66.7
14	45.8	47.6	60.0	56.7
15	66.7	81.0	73.3	76.7
16	75.0	81.0	63.3	60.0



3. 成長実感 (1-4) 大学・地域マネジメント学科

- 8. 発見した課題を解決する力が大学で2番目に高い87.8%、さらに7. ものごとの問題点を発見する力と12. 地域社会が直面する問題に対する理解はいずれも95.1%で大学で最も高くなっており、学科の特性が顕著である。
- 2.図書館等で文献を調べる力、10.英語の能力が大学で最も低くなっている。
- 1年次、2年次は標本誤差が10%以上であり、影響している可能性がある。

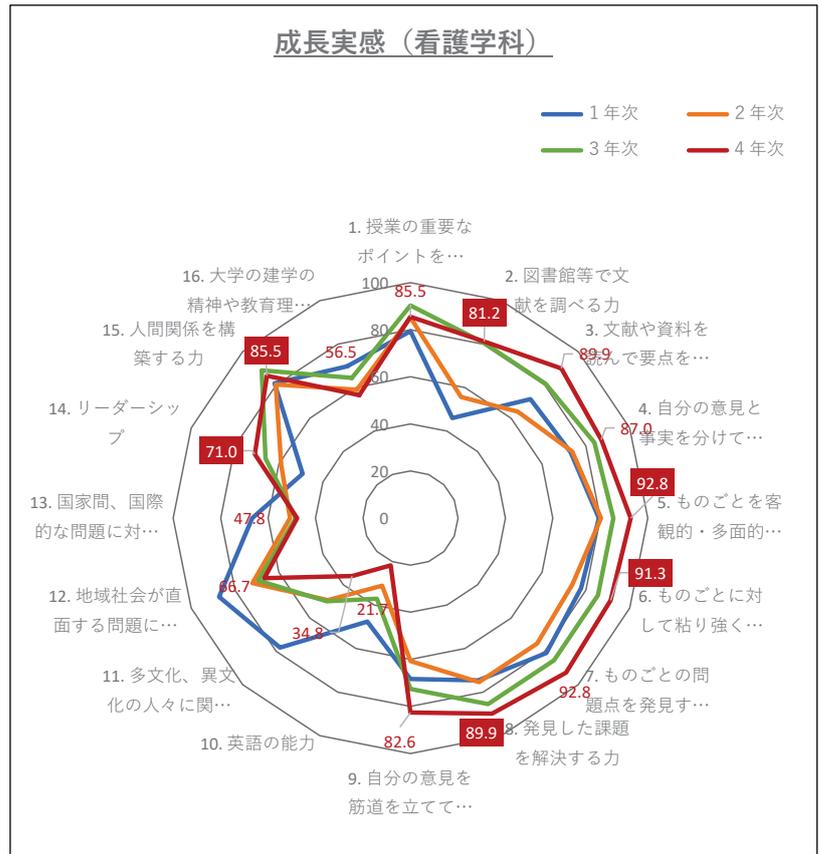
項目	2021	2022	2023	2024
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	80.0	77.8	69.7	70.7
2	50.0	50.0	33.3	48.8
3	63.3	77.8	78.8	92.7
4	83.3	88.9	78.8	87.8
5	76.7	83.3	81.8	85.4
6	66.7	77.8	90.9	90.2
7	70.0	83.3	90.9	95.1
8	63.3	72.2	69.7	87.8
9	56.7	83.3	66.7	80.5
10	30.0	16.7	15.2	19.5
11	40.0	61.1	48.5	39.0
12	93.3	100.0	93.9	95.1
13	36.7	55.6	57.6	41.5
14	40.0	44.4	57.6	61.0
15	60.0	66.7	81.8	85.4
16	56.7	72.2	60.6	53.7



3. 成長実感 (1-5) 大学・看護学科

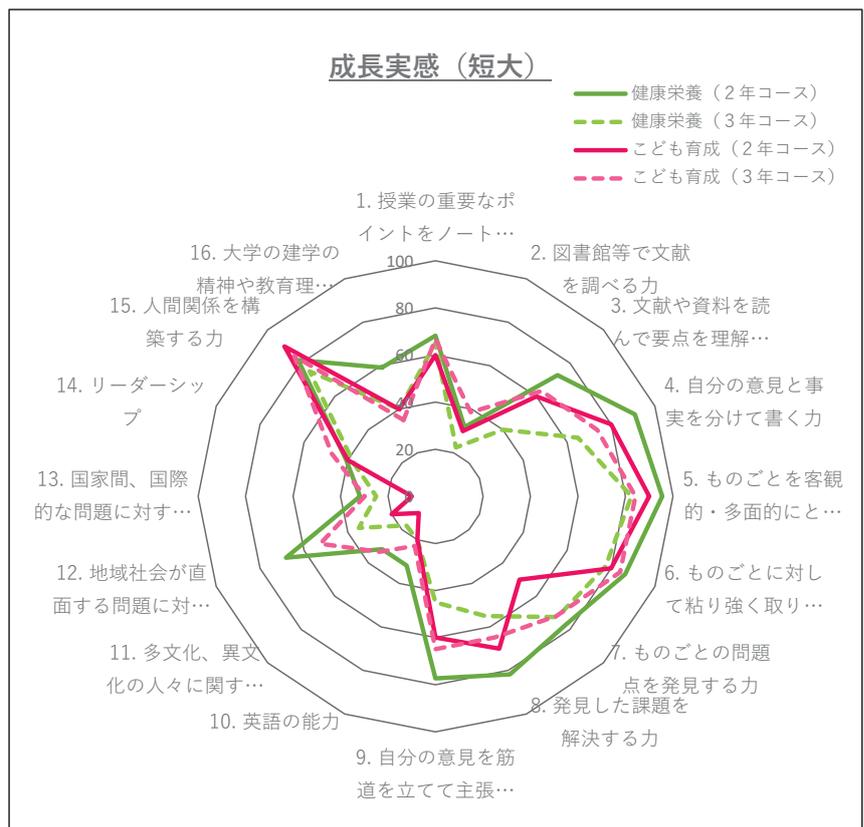
- 2、5、6、8、14、15の6項目の成長実感が、大学で最も高くなっている。
- 基本的なスキルや問題発見・解決等の力(1~9)のすべての数値が80%を超えている。
- 10、11、13の英語の能力、多文化・異文化の人々に関する知識、国家間・国際的な問題に対する理解については、いずれも50%を下回っている。

項目	2021	2022	2023	2024
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	79.4	85.2	90.3	85.5
2	46.0	55.7	80.6	81.2
3	71.4	63.9	80.6	89.9
4	73.0	73.8	83.9	87.0
5	79.4	80.3	85.5	92.8
6	77.8	73.8	85.5	91.3
7	81.0	75.4	85.5	92.8
8	74.6	75.4	85.5	89.9
9	68.3	60.7	72.6	82.6
10	47.6	31.1	37.1	21.7
11	77.8	49.2	50.0	34.8
12	87.3	72.1	69.4	66.7
13	66.7	50.8	48.4	47.8
14	49.2	59.0	66.1	71.0
15	81.0	80.3	88.7	85.5
16	69.8	59.0	64.5	56.5



3. 成長実感 (2-1) 短大・学科比較

項目	健康栄養 2年コース	健康栄養 3年コース	こども育成 2年コース	こども育成 3年コース
	1	68.2	65.0	60.0
2	31.8	22.5	30.0	38.6
3	72.7	40.0	60.0	63.2
4	90.9	65.0	80.0	73.7
5	95.5	82.5	90.0	84.2
6	86.4	77.5	80.0	84.2
7	77.3	72.5	50.0	71.9
8	81.8	55.0	70.0	64.9
9	77.3	45.0	60.0	64.9
10	31.8	20.0	20.0	22.8
11	31.8	17.5	10.0	33.3
12	68.2	35.0	20.0	52.6
13	31.8	25.0	10.0	29.8
14	40.9	37.5	40.0	47.4
15	81.8	75.0	90.0	84.2
16	59.1	40.0	40.0	35.1

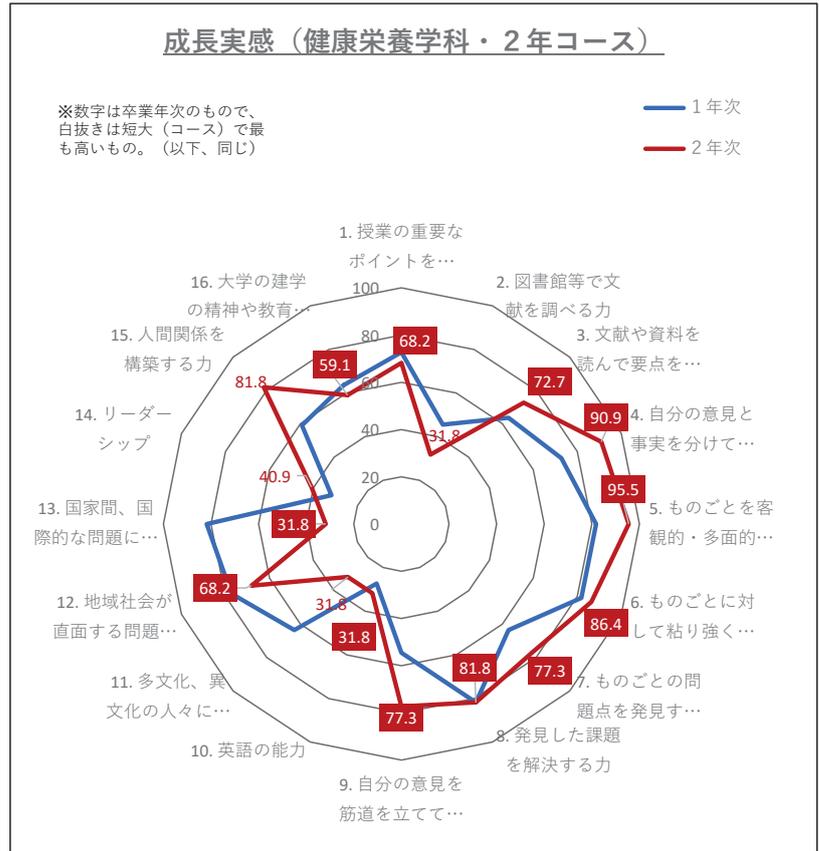


※背景色が青のものは短大で最も高いもの。

3. 成長実感 (2-2) 短大・健康栄養学科 (2年コース)

- 16項目のうち、2、11、14、15以外の12項目が短大(2学科それぞれの2年及び3年コース=計4コース)で最も高い。
- 基礎的なスキルや問題発見・解決等の力(1~9)が全般的に高いことから、2年間で一定の成長実感が得られていると評価できる。
- 特に4、5、7の項目においては、10ポイント以上の増加となっている。

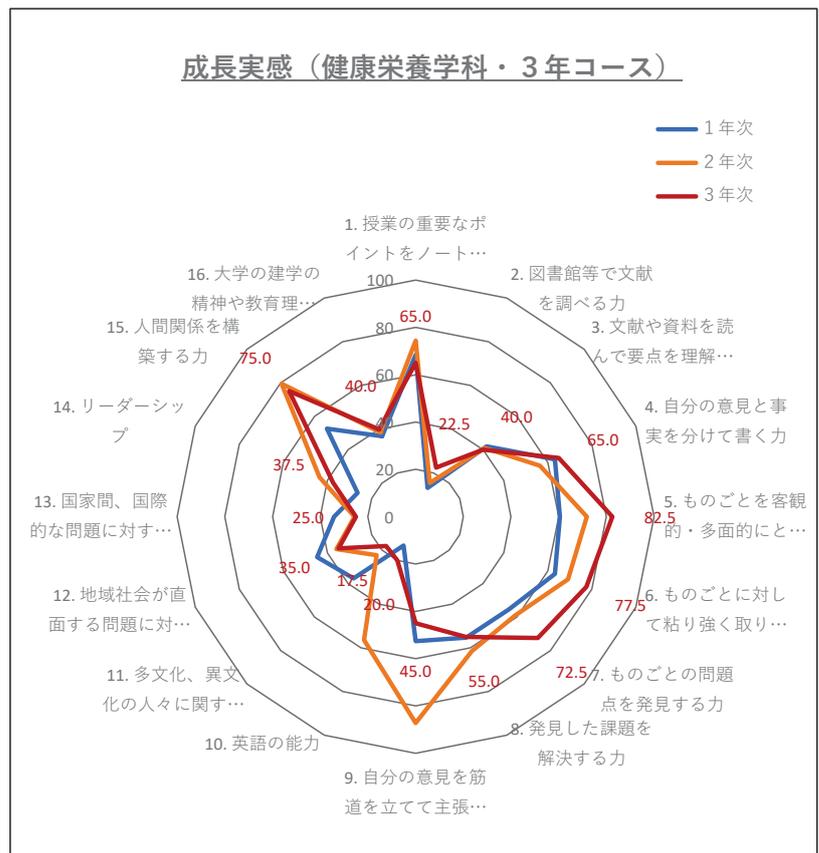
項目	2023	2024
	1年次	2年次
1	72.7	68.2
2	45.5	31.8
3	63.6	72.7
4	72.7	90.9
5	81.8	95.5
6	81.8	86.4
7	63.6	77.3
8	81.8	81.8
9	54.5	77.3
10	27.3	31.8
11	63.6	31.8
12	77.3	68.2
13	81.8	31.8
14	31.8	40.9
15	59.1	81.8
16	63.6	59.1



3. 成長実感 (2-3) 短大・健康栄養学科 (3年コース)

- 5、6、7、16は、他コースと比較すると数値が低いものもあるが、年次を重ねる中で着実に成長を実感できている。
- 短大4コースの中で、最も高い項目に該当するものはなかった。
- 2~6、8~10、14、15の10項目は短大で最も低い。

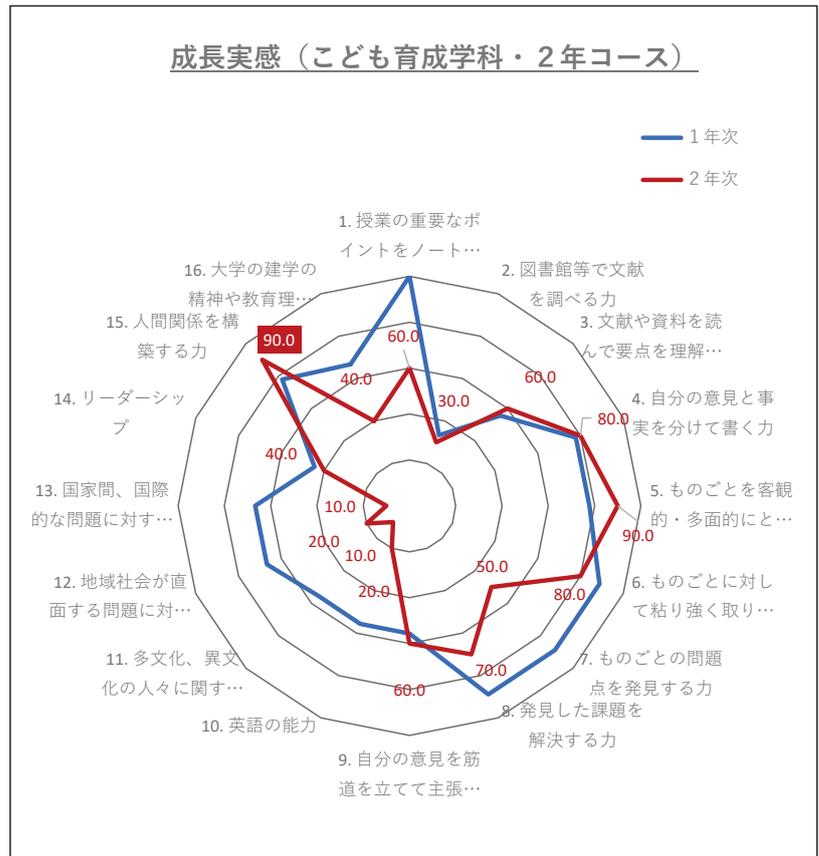
項目	2022	2023	2024
	1年次	2年次	3年次
1	68.4	74.4	65.0
2	13.2	15.4	22.5
3	42.1	41.0	40.0
4	63.2	56.4	65.0
5	60.5	71.8	82.5
6	63.2	69.2	77.5
7	55.3	59.0	72.5
8	55.3	61.5	55.0
9	52.6	87.2	45.0
10	13.2	56.4	20.0
11	36.8	23.1	17.5
12	44.7	35.9	35.0
13	34.2	25.6	25.0
14	26.3	43.6	37.5
15	52.6	79.5	75.0
16	36.8	38.5	40.0



3. 成長実感 (2-4) 短大・こども育成学科 (2年コース)

- 15.人間関係を構築する力は、90.0%となっており、短大で一番高い。
- 全体的に、2年次の数値が低下している傾向にあり、2、10、11、12、13、は30%以下となっている。
- 1年次は母集団、回答数ともに9(2年次は、ともに10)となっており、母集団の絶対数と標本誤差の影響も考慮する必要がある。

項目	2023	2024
	1年次	2年次
1	100.0	60.0
2	33.3	30.0
3	55.6	60.0
4	77.8	80.0
5	77.8	90.0
6	88.9	80.0
7	88.9	50.0
8	88.9	70.0
9	55.6	60.0
10	55.6	20.0
11	55.6	10.0
12	66.7	20.0
13	66.7	10.0
14	44.4	40.0
15	77.8	90.0
16	66.7	40.0



3. 成長実感 (2-5) 短大・こども育成学科 (3年コース)

- 問題発見・解決等の力(5~9)は概ね高くなっており、そのうち6、7は年次で着実に成長を実感できている。
- 2.図書館等で文献を調べる力、11.多文化、異文化の人々に関する知識、14.リーダーシップは、短大で一番高い。
- 全体でも1、3、6、7、9、10、12、13、15の9項目は、短大で2番目に高い。

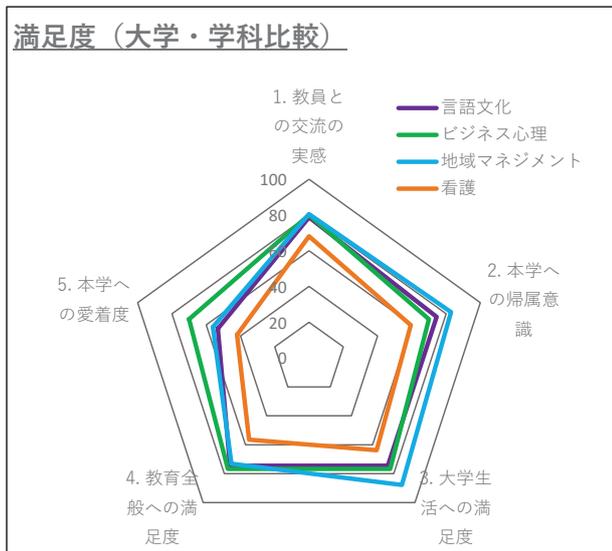
項目	2022	2023	2024
	1年次	2年次	3年次
1	70.8	70.2	66.7
2	35.4	43.9	38.6
3	52.1	57.9	63.2
4	62.5	61.4	73.7
5	70.8	89.5	84.2
6	70.8	80.7	84.2
7	54.2	63.2	71.9
8	56.3	64.9	64.9
9	47.9	89.5	64.9
10	16.7	50.9	22.8
11	35.4	42.1	33.3
12	45.8	43.9	52.6
13	37.5	43.9	29.8
14	31.3	56.1	47.4
15	75.0	80.7	84.2
16	47.9	50.9	35.1



4. 満足度 (1-1) 大学・学科比較

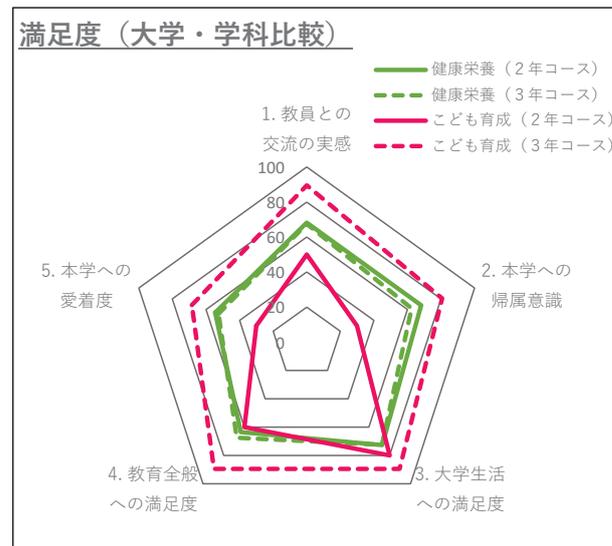
項目	言語文化	ビジネス心理	地域M	看護
1	78.7	80.0	80.5	68.1
2	74.5	70.0	60.6	53.2
3	74.5	76.7	78.8	61.3
4	74.5	76.7	75.8	50.0
5	53.2	70.0	48.5	33.9

※背景色が青のものは大学で最も高いもの。



項目	健康栄養 (2年コース)	健康栄養 (3年コース)	こども育成 (2年コース)	こども育成 (3年コース)
1	68.2	67.5	50.0	89.5
2	68.2	62.5	30.0	80.7
3	72.7	72.5	80.0	89.5
4	63.6	67.5	60.0	89.5
5	54.5	52.5	30.0	68.4

※背景色が青のものは短大で最も高いもの。

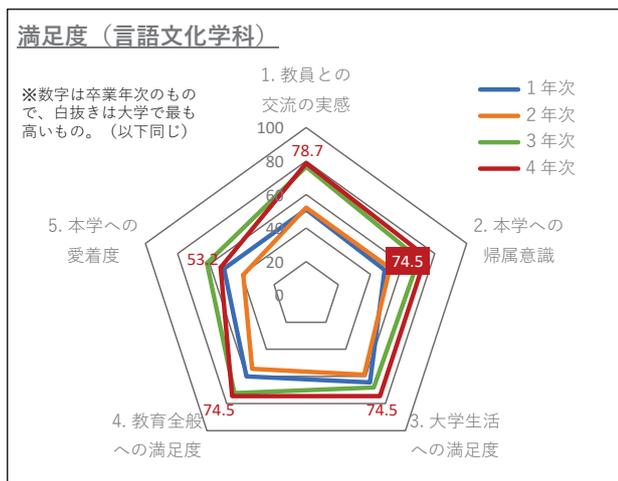


15

4. 満足度 (1-2) 大学・言語文化学科／ビジネス心理学科

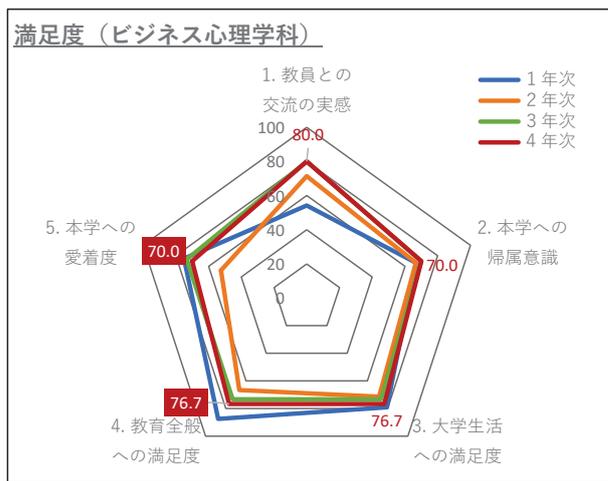
- 2.本学への帰属意識が、大学で最も高い。また、1年次と4年次の満足度を見比べると、大学で唯一、5項目すべてが向上している。
- 5. 本学への愛着度が2年次、4年次で低下しており、他4項目と比べても53.2%と低い。

項目	2021	2022	2023	2024
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	51.1	52.2	76.6	78.7
2	48.9	52.2	70.2	74.5
3	64.4	58.7	68.1	74.5
4	60.0	54.3	72.3	74.5
5	51.1	39.1	61.7	53.2



- 4年次の満足度では、4、5、の2項目が大学で最も高く、他の3項目も2位であることから、「学生の満足度が高い学科」と言える。
- 特に4.教育全般への満足度は、1年次も87.5%となっており、学科別・学年別で見ても最も高い。

項目	2021	2022	2023	2024
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	54.2	71.4	80.0	80.0
2	66.7	66.7	70.0	70.0
3	79.2	71.4	73.3	76.7
4	87.5	66.7	73.3	76.7
5	75.0	52.4	73.3	70.0

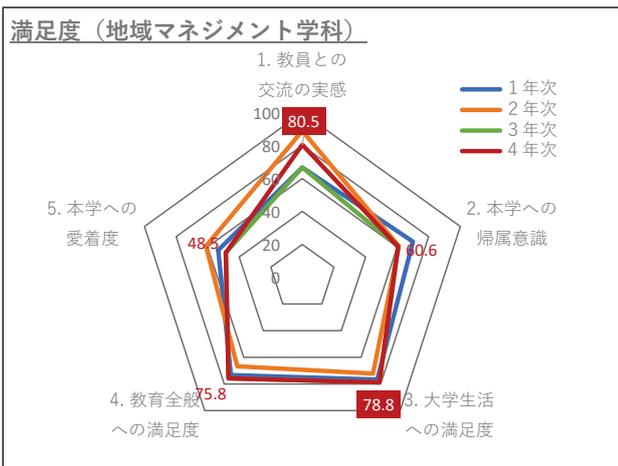


16

4. 満足度 (1-3) 大学・地域マネジメント学科／看護学科

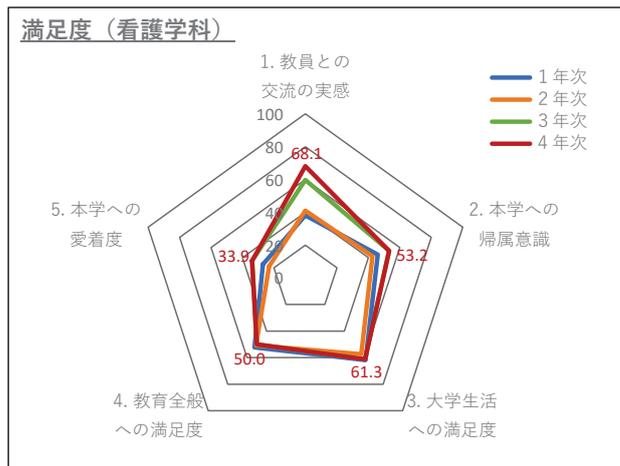
- 1. 教員との交流の実感、3. 大学生活への満足度が大学で最も高く、4. 教育全般への満足度も2位であることから、満足度の高い学生生活を過ごしていることがうかがえる。
- 3年次から4年次にかけて2~5の項目は、同様の数値となっている。

項目	2021	2022	2023	2024
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	66.7	88.9	66.7	80.5
2	70.0	61.1	60.6	60.6
3	76.7	72.2	78.8	78.8
4	73.3	66.7	75.8	75.8
5	53.3	61.1	48.5	48.5



- 数値は低ながらも学年進行で微増または維持している。
- 4年次は5項目すべてにおいて、大学で最も低い数値となっている。また、どの年次を見ても、他学科と比較して満足度が低い傾向にある。

項目	2021	2022	2023	2024
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	38.1	41.0	59.7	68.1
2	46.0	42.6	53.2	53.2
3	61.9	57.4	61.3	61.3
4	52.4	50.8	50.0	50.0
5	27.0	23.0	33.9	33.9

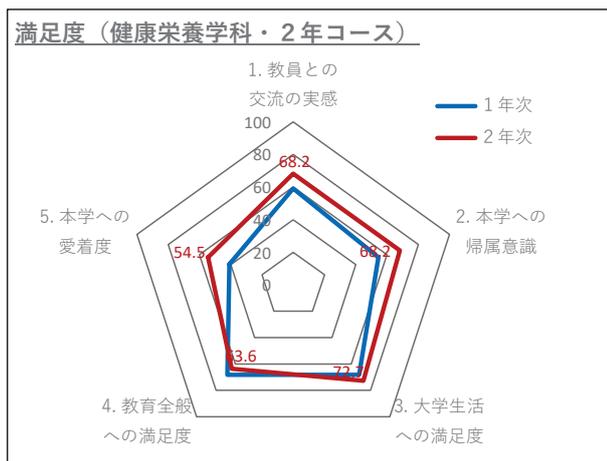


17

4. 満足度 (2-1) 短大・健康栄養学科 (2年コース／3年コース)

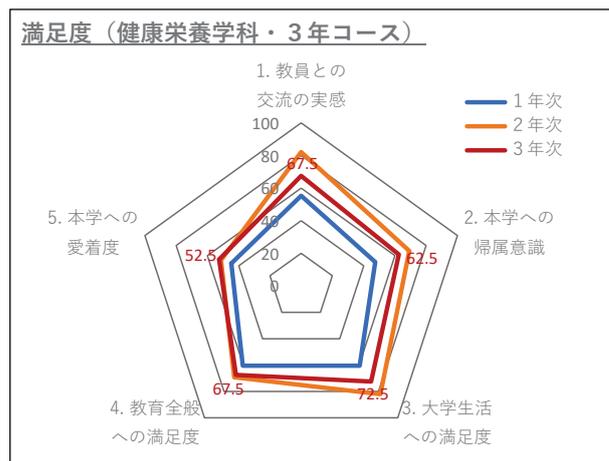
- 4. 教育全般への満足度以外の4項目は、1年次より2年次が着実に増加している。
- 2. 本学への帰属意識、5. 本学への愛着度の2項目は、2年次で約14%の増加となっている。

項目	2023	2024
	1年次	2年次
1	59.1	68.2
2	54.5	68.2
3	68.2	72.7
4	68.2	63.6
5	40.9	54.5



- 5項目すべてにおいて、満足度は1年次から2年次にかけて増加し、2年次から3年次にかけて低下している。
- 3. 大学生活への満足度は、72.5%と高いものの、短大で最も低い。

項目	2022	2023	2024
	1年次	2年次	3年次
1	55.3	82.1	67.5
2	47.4	69.2	62.5
3	60.5	82.1	72.5
4	60.5	69.2	67.5
5	44.7	51.3	52.5



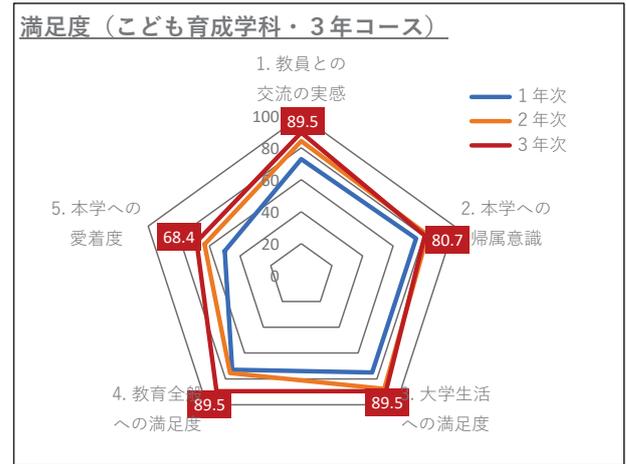
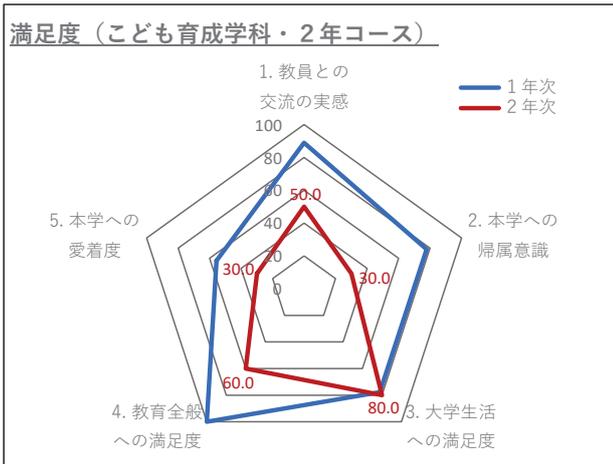
18

4. 満足度 (2-2) 短大・こども育成学科 (2年コース/3年コース)

- 1年次の4.教育全般への満足度は、100% (9/9人) であった。
- 全ての項目が2年次で大幅に低下しており、特に2.本学への帰属意識は大幅に減少している。
- 短大全体で見ても、3.大学生活への満足度は短大で2位だが、他の4項目は最も低い数値であった。
- 5項目すべてにおいて短大で1番高く「満足度の高い学科(コース)」と言える。
- 2.本学への帰属意識以外は年次の進行とともに向上しており、3年間での学びや学生生活というスタイルが受け入れられている。

項目	2023	2024
	1年次	2年次
1	88.9	50.0
2	77.8	30.0
3	77.8	80.0
4	100.0	60.0
5	55.6	30.0

項目	2022	2023	2024
	1年次	2年次	3年次
1	72.9	84.2	89.5
2	75.0	82.5	80.7
3	75.0	87.7	89.5
4	72.9	75.4	89.5
5	50.0	63.2	68.4



19

5. レポートの活用 ～ まとめに代えて

- 成長実感と満足度の回答を分析した結果から、次の例のような点をアピールすることが考えられる。

【言語文化学科】

- 大学生としての基礎的なスキルや問題発見・解決の力はもとより、多文化や異文化、英語の能力が確実に身につく、帰属意識や愛着度が高い。

【ビジネス心理学科】

- 大学生としての基礎的なスキルや問題発見・解決の力、人間関係を構築する力がしっかりと身につく、教育への満足度や愛着度も高い。

【地域マネジメント学科】

- 長期のフィールドワークなどを通して、地域社会が直面する問題に対する理解や課題を発見し解決する力が身につく、実習や講義、学生生活を通じて教員が適切に関わっている。

【看護学科】

- 専門知識だけでなく、大学生としての基礎的なスキルや問題発見・解決等の力や、リーダーシップ、人間関係を構築する力が高いレベルで、しっかりと身につく。

【健康栄養学科 (2年コース)】

- 2年間で短期大学生としての基礎的なスキルや問題発見・解決等の力、地域社会の問題理解などが身についたことを実感できる。

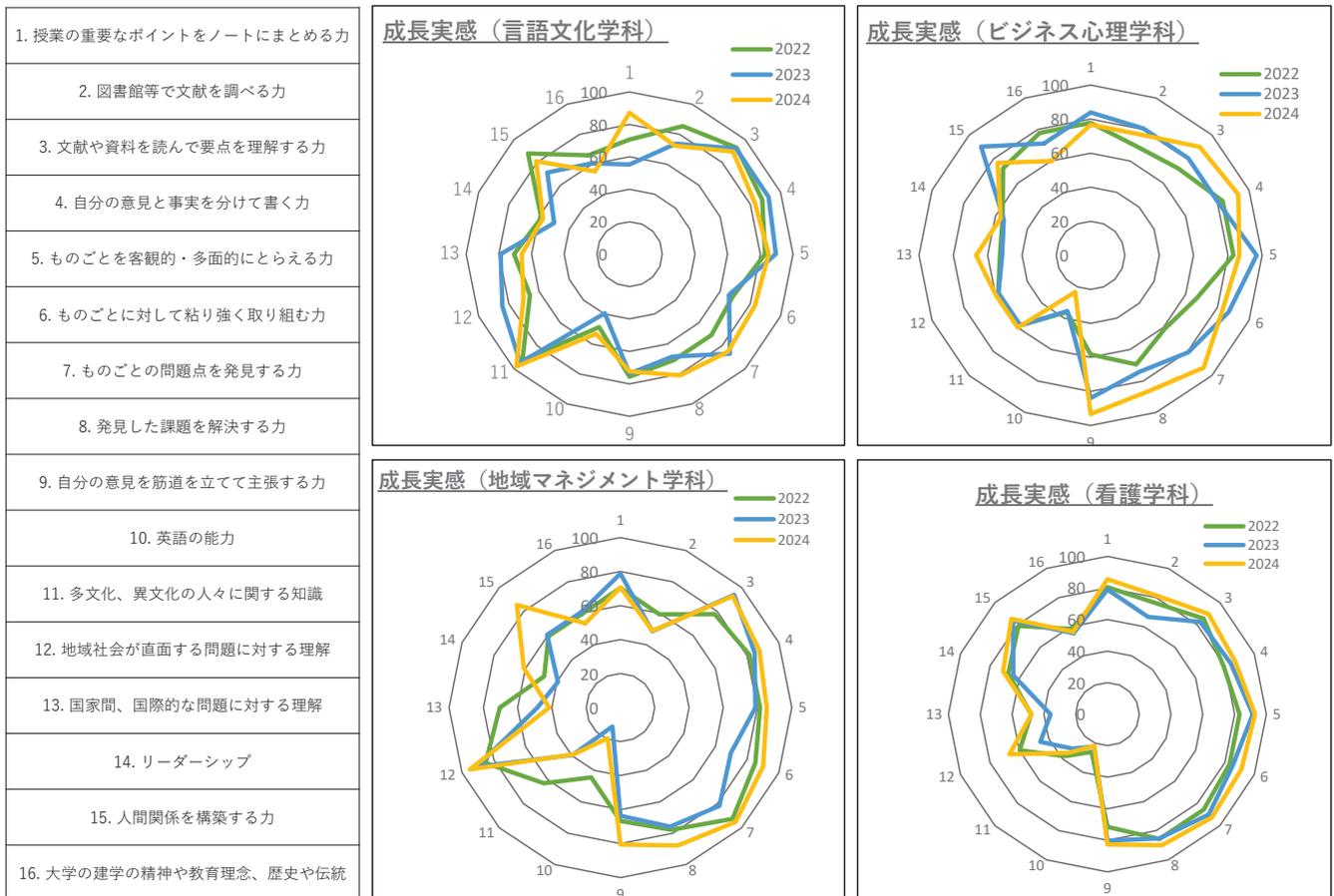
【こども育成学科 (3年コース)】

- 問題発見・解決等や人間関係を構築する力を高いレベルでしっかりと身につけることができ、学びや学生生活での満足度が非常に高い。

- 各学科では、このレポートで提供するデータと分析結果を活用し、2023年度のデータとも比較 (P21～P24) しながら、アピールポイントやカリキュラムのブラッシュアップに取り組んでいただきたい。

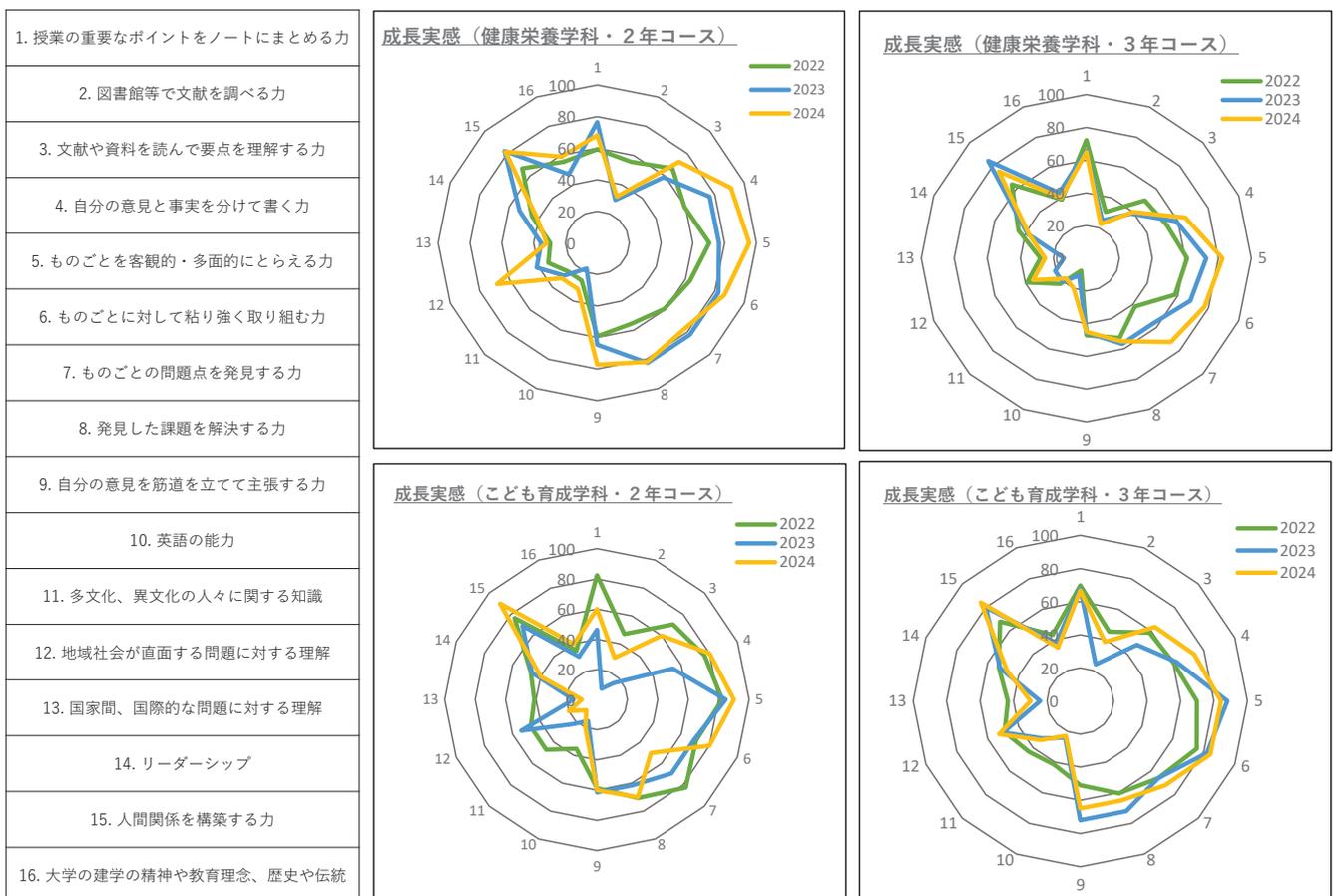
20

【参考資料】2022、2023年度卒業生との比較①（大学・成長実感）



21

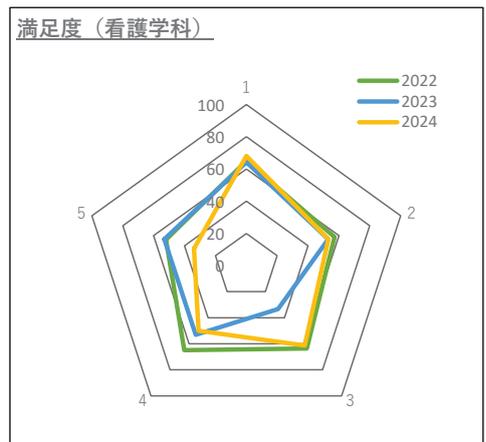
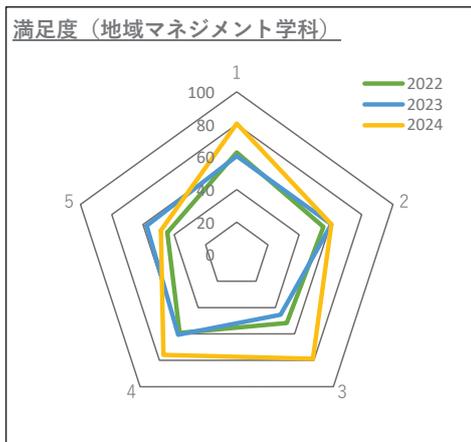
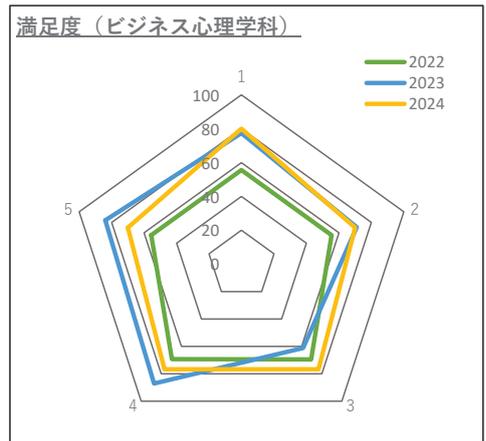
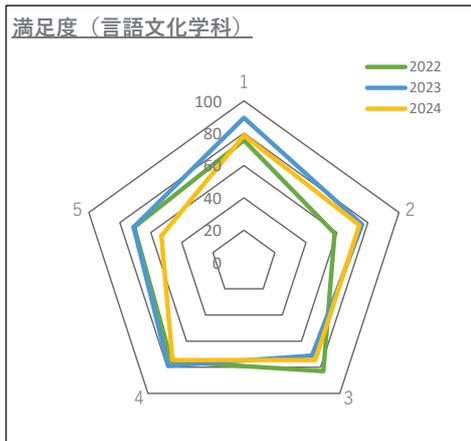
【参考資料】2022、2023年度卒業生との比較②（短大・成長実感）



22

【参考資料】 2022、2023年度卒業生との比較③（大学・満足度）

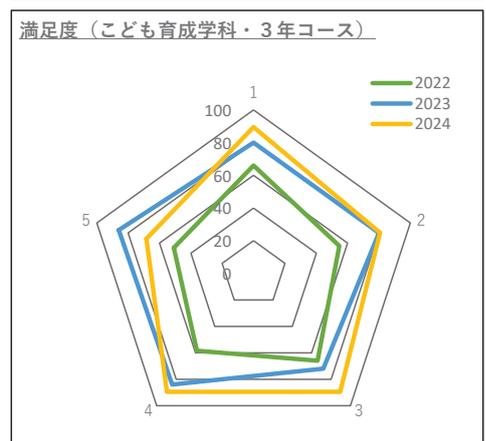
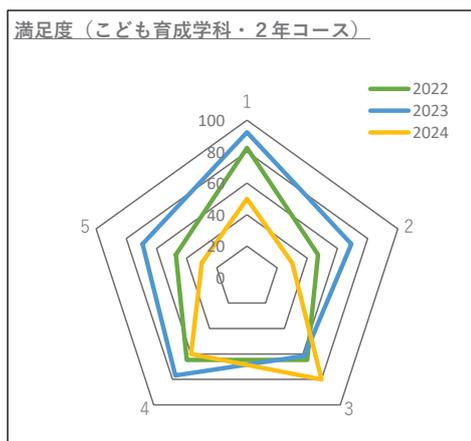
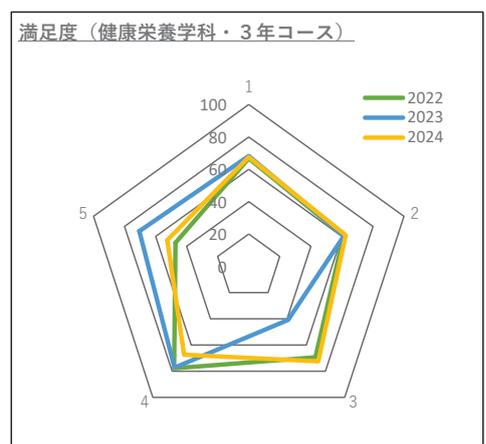
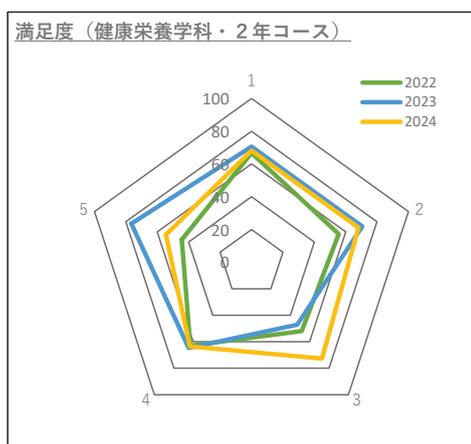
1. 教員との交流の実感
2. 本学への帰属意識
3. 大学生活への満足度
4. 教育全般への満足度
5. 本学への愛着度



23

【参考資料】 2022、2023年度卒業生との比較④（短大・満足度）

1. 教員との交流の実感
2. 本学への帰属意識
3. 大学生活への満足度
4. 教育全般への満足度
5. 本学への愛着度



24